

## 《Japan Week》公式行事



### オープニング・セレモニー

2019年11月23日（土）昼、シンタグマ広場において、ジャパン・ウィークのオープニング・セレモニーが行われました。当日は、バコヤニス・アテネ市長、愛知 IFF 会長、清水大使等が挨拶を行う中、様々な日本文化パフォーマンスも披露され、日本・ギリシャ修好 120 周年の集大成となる大型行事が盛大に幕を開けました。



### ウェルカム・レセプション

23日（土）夜、メガロン・アテネ・コンサートホールにおいて、アテネ市長主催のもと、ジャパン・ウィーク参加者を歓迎するウェルカム・レセプションが実施されました。



## リボンカッティング・セレモニー

24 日（日）朝、メガロン内エキシビジョン・ホール前でリボンカッティングが行われ、展示場がオープンしました。同会場では、28 日まで日替わりで様々な展示が行われます。



## 「明治の工芸/平成の工芸－150 年の時代を超えた日本のわざと装飾の美」展

### オープニングレセプション

2019 年 11 月 13 日（水）、現代ギリシャ文化博物館において、同博物館、ギリシャ文化・スポーツ省、国立西洋美術館共催、在ギリシャ日本大使館後援による「明治の工芸/平成の工芸－150 年の時代を超えた日本のわざと装飾の美」展のオープニングレセプションが行われました。この日は雨に見舞われましたが、清水大使夫妻はじめ、政府関係者や文化芸術関係者等多くの招待者が来場しました。

冒頭、メンドーニ・ギリシャ文化・スポーツ大臣より開会の辞が述べられ、続いて、清水大使、現代ギリシャ文化博物館・メリーディ館長、国立西洋美術館・馬淵館長よりそれぞれ挨拶が行われました。

来場者は、開館 100 周年の節目に同日リニューアルオープンを迎えた現代ギリシャ文化博物館の展示会場で、明治と平成、2 つの時代に生み出された選りすぐりの作品 48 点につき、展示を手掛けた工芸史家・諸山氏より説明を受け、日本工芸の伝統が放つ崇高な輝きと洗練された創造の美に大いに魅了された人々からは感銘の声が上がりました。

式典後のレセプションでは、日本酒も提供され、来場者は芸術談義に花を咲かせ、終始和やかな雰囲気にも包まれた日本文化のタベとなりました。

「明治の工芸/平成の工芸－150 年の時代を超えた日本のわざと装飾の美」展は、日本・ギリシャ修好 120 周年（1899-2019）記念行事の一環として、2020 年 1 月 12 日（月）まで現代ギリシャ文化博物館において開催されます。



## 清水大使のカリムノス島訪問

2019年10月26日から28日、清水大使はカリムノス島を訪問しました。この訪問は、ロッククライミングで同島が世界的に人気であることから、2020年の東京オリンピックにおいて初めてクライミングが大会競技に加えられたことを記念して、チリディス・ギリシャ観光連盟（FedHATTA）会長のイニシアチブにより、ディアコミハリス・カリムノス市長が日本大使夫妻を招待したことにより実現したものです。

清水大使は、ブラツァノス希日協会会長による案内のもと、多くの登山者が登攀するロッククライミング・サイトを訪問し、エキスパートによるデモンストレーションを視察するとともに、自らもロッククライミングを体験しました。また、島の伝統的な産業である海綿の博物館や工場も視察するとともに、島の伝統的な生活や衣装、食材や食生活についても説明を受けました。さらに、カリムノス市区域内のイミア島で、1996年に生じたトルコとの紛争事件についても説明を受けました。また、清水大使は、オヒ・デーの行事にも参加し、無名戦士の碑に花輪を捧げました。

27日には、市長、知事、政府関係者及び国会議員列席の下で大使訪問の公式歓迎式典が開催されました。清水大使は、カリムノス島の良質なロッククライミング・サイトは日本人にも知られているが、さらに日希友好120周年や東京オリンピックを契機にカリムノス島により多くの日本人が訪問することを期待する旨述べていました。



### 清水大使のコルフ訪問（ローザ・カシマティ記念式典及び講演会への出席）

2019年10月14日、清水大使はコルフ島を訪問し、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の母ローザ・カシマティに関する記念式典及び講演会に出席しました。本事業は、UNESCO イオニア・センターとイオニア大学歴史学部との共催で、日本大使館後援の下、日本・ギリシャ修好120周年事業の一環として実施されたものです。

当日は、昨年ローザに関する碑が設置されたことを記念して、聖パンデレイモン教会で追悼式典が行われた後、イオニア大学アカデミーにおいてローザ及びハーンに関する講演会が実施されました。冒頭、イオニア大学音楽学部生徒による両国国家の斉唱が行われ、講演会プログラム中には、スクラブノス UNESCO イオニア・センター長、エフスタシウ・イオニア大学歴史学部長、イドレウ・コルフ市長等からの歓迎の辞が述べられました。清水大使も挨拶を行い、ローザ及びハーンが日本とギリシャの架け橋として果たしてきた役割の大きさに言及するとともに、本イベントが修好120周年の意義を高めるものであるとして、主催者をはじめとする関係者及び講演者への謝意を表明しました。

コルフ島には、ローザが晩年過ごした精神病棟（現在はイオニア大学の一部）や葬儀を行った教会等、多くの彼女ゆかりの地が存在します。



## スピリドン・G・ドロ斯拉キス氏への外務大臣表彰伝達式



ギリシャ剣道居合道長刀連盟のスピリドン・G・ドロ斯拉キス氏が、令和元年度外務大臣表彰を受賞しました。

2019年10月7日には、ギリシャにおける武道の普及、及びこれを通じた日本文化の理解促進に貢献してきた同氏の功績を称え、大使公邸にて伝達式が行われました。

ドロ斯拉キス氏は、早くから様々な武道を嗜み、それらの稽古に勤しむ傍ら自らが開いた「風流道場」にて居合道及び剣道の指導者としても活躍し、現在はギリシャ剣道居合道長刀連盟の会長を務めています。また、同氏がコーディネーターとして携わる日本大使館文化事業「武道デモンストレーション」は、現在までに7回実施され、大きな成功を収めています。

外務大臣表彰は、1983年に、我が国と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をされた個人および団体の功績を称え、その活動に対する一層の理解と支持を広めるために設立されました。



## 清水大使のクレタ訪問及び欧州ジュニア柔道選手権出席

2019 年 10 月 5 日、清水大使は、ハニアにて行われた欧州ジュニア柔道選手権に出席しました。開会式における挨拶では、柔道が欧州及びギリシャで広く親しまれていることへの喜びを表明するとともに、特に日本・ギリシャ友好 120 周年にあたる本年に同大会がギリシャにおいて開催されることは非常に意義深く、柔道も正式種目となっている来年の東京オリンピックに向けて二国間の友好関係が更に増進することを期待する旨述べました。その後、閉会式では 1 位～3 位までの選手が表彰され、清水大使もメダル授与者として登壇しました。



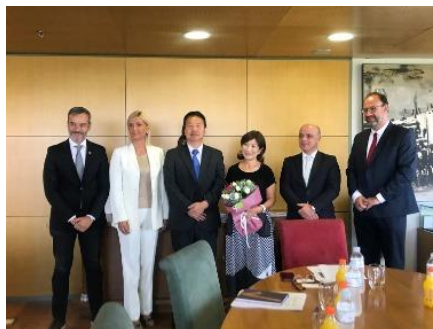
また、先立つ 10 月 4 日、清水大使は、ニコラオス・カルゲロス・クレタ副知事及びヤニス・ニキフォラーキス・ハニア副市長と懇談し、クレタ島及びハニア市における柔道の普及につき話を聞くとともに、スポーツ、観光、経済等多岐にわたる分野における両自治体と大使館との今後の協力につき意見交換を行いました。



## 清水大使のテサロニキ出張



2019年9月7日、清水大使は、駐テサロニキ名誉総領事とともに、第84回テサロニキ国際見本市開会式に出席した他、日本たばこインターナショナル（JTI）のブースを訪問し、新任のクレスポ社長と意見交換を行いました。また、翌8日、同名誉総領事とともに、コンスタンティノス・ゼルヴァス・新テサロニキ市長を表敬訪問した後、日立レール STS 社によるテサロニキ・メトロ事業を視察した他、北部ギリシャで事業を展開している日系企業関係者と意見交換を行いました。



## 田中内閣府副大臣のギリシャ訪問

2019年7月24日から26日、田中内閣府副大臣がギリシャを訪問し、フランゴヤニス外務政務官（経済外交・国外進出等担当大臣）や、当地の起業・投資・貿易促進機関であるエンタープライズ・グリース（Enterprise Greece）のステルユリス理事長などと会談しました。会談では、ギリシャにおけるスタートアップの現状について説明を受けるとともに、両国の経済関係を更に強化していくことで合意しました。また、現地のスタートアップ成功例としてタクシー配車アプリを開発したビート社（Beat）を訪問し、イリッチ最高執行責任者他より、会社の概要や運営状況について説明を受けました。

その他、田中副大臣は、日立製作所のグループ会社が関与しているテサロニキ・メトロ及び三菱日立パワーシステムズが参加しているプトレマイス火力発電所の建設現場を視察し、各施設の概要やプロジェクトの進捗

状況などについてそれぞれ説明を受けました。



エンタープライズ・グリース訪問



プトレマイス火力発電所視察



梅川壱ノ介公演「<sup>ビート社訪</sup>日本舞踊×

## ギリシャ悲劇～オイディプス王～



2019年7月18日（木）、アメリカン・カレッジ Deree にて、在ギリシャ日本大使館は同校との共催により、日本舞踊家・梅川壱ノ介氏を迎えて日本・ギリシャ修好120周年記念事業「日本舞踊×ギリシャ悲劇～オイディプス王～」を実施しました。梅川氏は世界を舞台に活躍しており、この度初めてギリシャを訪れアテネ・フェスティバルの一環で開催されているエピダウロス国際演劇セミナーにて講師を務めた後、アテネに舞台を移しての公演となりました。

18日午後8時、アメリカン・カレッジ Deree の BLACK BOXシアターには多くの観客が詰め掛け、満員御礼となりました。開演冒頭、同校のトマス芸術学部長より梅川氏の訪希を歓迎する辞が述べられた後、清水大使より梅川氏の紹介と共に共催団体への謝辞が述べられました。

梅川氏の映像が舞台スクリーンに映し出された後、本人が登場し、日本舞踊の伝統的な演目である「都名所」「連獅子」を華麗に舞い終えると、ギリシャ語も交えた挨拶を行い、各演目の見どころについて簡単に解説がなされました。日本での公演の様子を録画した映像も上映され、観客は日本舞踊の美をさらに堪能しました。後半、梅川氏がオペラ「オイディプス王」を元に花柳流家元、花柳壽輔氏の監修のもと手掛けた作品を披露すると、日本舞踊の優美かつ力強い手法で表現されたギリシャ悲劇の世界に満場の観客は魅了され、拍手喝采が送られました。

公演後、会場ホールに金屏風の記念撮影コーナーが設けられ、梅川氏は多くの観客と歓談しながら写真に収ま

り、惜しみない賛辞を受けました。また、同ホールでは日本酒が提供され、終始和やかな雰囲気にも包まれた日本ギリシャ友好の夕べとなりました。



## レフカダ市における小泉八雲生誕祭 2019

2019 年 6 月 26 日（火）及び 27 日（水）、レフカダ市において、例年行われている小泉八雲生誕を記念した同市主催のイベント「Lafcadio Hearn Days 2019」が開催され、清水大使夫妻及び新谷広報文化担当官が出席しました。特に今年は、レフカダー新宿姉妹都市提携 30 周年にあたり、日本・ギリシャ修好 120 年と併せて 2 つの節目が盛大に祝われました。

26 日夕方に行われたオープニングでは、小泉八雲に関する講演に先立ち、まずニキタキス市長より開会の辞が述べられ、続いて清水大使より「日本・ギリシャ修好 120 年」に関するスピーチが行われました。また同日夜には、日本から来訪した舞踊グループ「舞鼓刀塾」メンバーによる、小泉八雲著「怪談（Kwaidan）」を題材とした創作演舞「芳一」の公演（大使館後援）が行われ、その迫力で観客を魅了しました。

本イベント期間中には、日本・ギリシャ修好 120 周年記念事業の一環として、展覧会「Yakumo Koizumi: Where clouds are born」（大使館後援）も催され、来場者を楽しませました。



## 海上保安庁巡視練習船「こじま」のピレウス寄港

2019 年 6 月 21 日、海上保安庁の巡視練習船「こじま」は、世界一周遠洋練習航海の途上、日ギリシャ修好 120 周年を記念して、ギリシャのピレウスに寄港しました。「こじま」のピレウス寄港は 10 年ぶり、5 回目になります。「こじま」は、本年 3 月に海上保安大学校を卒業した幹部候補生を乗せ、約 3 ヶ月間の遠洋練習航海を行っており、6 月 25 日に当地を出港し、世界一周遠洋航海実習を続けます。

ピレウス入港当日には、併せてギリシャに来訪した藺浦総理補佐官が、「こじま」乗組員 44 名及び実習生 43 名を激励しました。その後、船上レセプションが催され、ギリシャ沿岸警備隊、ピレウス港湾局、ピレウス市の関係者の他、当地の海事関係者、日系企業、文化関係者、外交団等が出席しました。レセプションでは戸ノ崎船長、藺浦総理大臣補佐官、清水大使が挨拶を行った後、実習生による柔道、餅つき、書道、茶道、着付けの文化デモンストレーションが行われ、現地の人々との交流を図りました。

寄港に際し、戸ノ崎「こじま」船長は、ギリシャ沿岸警備隊長官をはじめ、ピレウス港湾局及びピレウス市の関係者を表敬訪問し、両国の親交を深めました。また、実習生 43 名は、ギリシャ沿岸警備隊施設と古代船博物館を見学し、ギリシャにおける沿岸警備の歴史と現在に関する知識を深めました。

今回の「こじま」の遠洋航海は、4月末に広島・呉を出港し、太平洋を越えてサンフランシスコ及びNYに寄港、大西洋を越えて地中海に入りピレウスに来港したのち、今後、スエズ運河を抜けてインド洋に向かい、シンガポール、ベトナムに寄港して、7月末までに呉に戻る予定です。



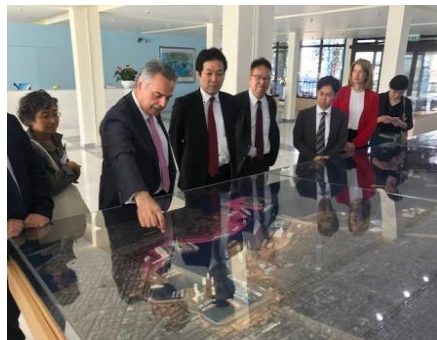
## 藺浦総理補佐官の来訪

2019年6月21日及び22日、藺浦総理補佐官がギリシャを訪問し、カトゥルガロス・ギリシャ外務大臣他と会談を行いました。会談では、今後の二国間関係強化の方策について協議するとともに、アジア及び欧州の地域情勢等に関する意見交換を行いました。また、共に海運大国として価値を共有する日本とギリシャが、海洋における法の支配の確立に向けて連携していく他、両国の経済関係を強化していくことを再確認しました。

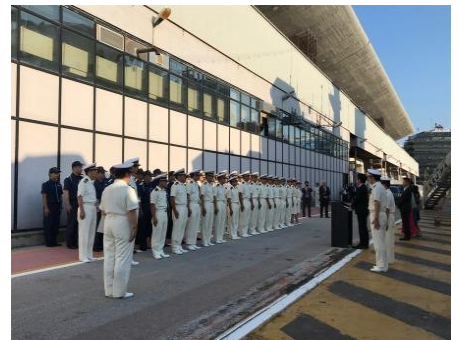
その他、藺浦総理補佐官は、当地邦人ビジネスマンとの意見交換や、ピレウス港の視察を行いました。また、21日、日ギリシャ修好120周年を記念してピレウスに来港した海上保安庁の巡視練習船「こじま」の乗組員や実習生を激励し、続く船上レセプションにて当地の沿岸警備隊や港湾・海運関係者、実習生との交流を行いました。



カトゥルガロス・ギリシャ外務大臣との会談



ピレウス港視察



乗組員・実習生の激励

## 欧州公法機関における大使講演

2019年6月6日、清水大使は、欧州公法機関（EPLO）のSDGセンターが主催する「自然災害対応におけるグッド・ガバナンス」と題する講演会に、スピーカーとして出席し、「日本における防災と緊急対応」と題する基調講演を行いました。



## ギリシャ船舶サミットにおける大使講演

2019年6月5日、清水大使は、SeaNation事務局が主催する「ギリシャ船舶サミット」会議に、スピーカーとして出席し、「日本海事産業と気候変動への対応」と題する基調講演を行いました。



## 「新緑の茶会」－清水大使による茶道デモンストレーション－

2019年5月21日（火）、在ギリシャ日本国大使館は、アテネ市美術館－ヴール・エフタクシア財団及びギリシャ日本協会との共催により、「新緑の茶会」（清水大使による茶道デモンストレーション）を実施しました。裏千家の中級許状「和巾点(わきんだて)」を有する清水大使は、清水大使夫人を半東として、茶席を設けました。

本茶会主催者であるヴォヤジス・アテネ市美術館館長及びヴラツァノス希日協会会長、並びにセオハラキス・メガロン館長、Radhika Steinmetz 駐ギリシャ・ルクセンブルク大使夫人を含む招待者は、厳かな雰囲気の中、お茶とお菓子を味わい、日本の伝統文化である茶道の世界に親しみました。



## ビジネス・セミナー「EU 及びギリシャの重要なパートナーとしての日本」

2019年4月12日、国際経済研究所（IIER）及びギリシャ欧州外交政策研究所（ELIAMEP）は、当館協力のもと、「EU 及びギリシャの重要なパートナーとしての日本」と題するビジネス・セミナーを開催しまし

た。本件は、日本・ギリシャ修好 120 周年記念事業の一環として、IIER 事務所にて開催し、両国のビジネス関係者、船舶関係者、政府関係者、ジャーナリスト、研究者や学生など、延べ約 80 名が参加しました。

冒頭、清水大使とヨルガケロス外務省政務総局長が挨拶し、二国間関係を更に再活性化させる意図を表明するとともに、来るカトゥルガロス外務大臣の訪日の成功を祈りました。

第 1 部では、最初に ELIAMEP のサノス・ドコス所長が日本の地政学的重要性について論じた後、IIER のプラメン・トンチェフ・アジア部長が日 EU 経済連携協定（EPA）及び「質の高いインフラ」イニシアチブに関するプレゼンを行い、続いて EU 対外関係局のジョージ・カニングハム・アジア太平洋関係戦略顧問が欧州とアジア間の「連結性」に関するプレゼンを行いました。

続く第 2 部では、MEVGAL 社のイオアニス・ゴロヤス輸出部長、Theocharakis／日産社のパナヨティス・セオハラキス副社長及び、ツァコス・グループのパナヨティス・スーリス事業部長が、それぞれチーズ、自動車、および海事産業の分野における日本での経験を語ったほか、最後に日本海事協会（ClassNK）の形部聖一執行役員／地中海東部・黒海北部管区事務所長が、両国間の船舶業界の歴史と展望について説明しました。

各セッションの後には質疑応答があり、参加者からは日ギリシャ間の貿易や船舶関係などについて質問がありました。セミナー終了後のレセプションでは、寿司や酒、ギリシャのワインを味わいながら、両国のビジネスマンや参加者が交流を深めました。

#### セミナー報告書「EU 及びギリシャの重要なパートナーとしての日本」（英語）



## FOOD EXPORT SUMMIT

2019 年 3 月 16 日、清水大使はギリシャの FOOD EXPO にて、Greek Exporters' Association-SEVE が主催した「Food Export Summit - A riveting workshop for exports in Japan」に出席しました。冒頭挨拶の中で清水大使は、2 月に日 EU・EPA が発効されたことに触れ、今後より多くのギリシャ産の食品が日本市場に参入することに期待感を示しました。同セミナーには、在京ギリシャ大使館員の他、日本のアヲハタ社、ノスティミア社などからスピーカーが出席し、高い関心を呼んでいました。



## 講演会「嘉納治五郎とオリンピックへの道」

2019 年 3 月 26 日（火）、在ギリシャ日本国大使館は、国際オリンピック・アカデミー後援、M/MARITIME 協賛のもと、三船久蔵・ギリシャベテラン柔道家協会と共催で、パルナソス文化芸術シアターにて講演会「嘉納治五郎とオリンピックへの道」を開催しました。本イベントは、日本・ギリシャ修好 120 周年記念事業の一環として、また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック記念事業として実施されました。

冒頭、清水大使及び国際オリンピック・アカデミー会長顧問（事業開発顧問）デイオニシオス・ガガス氏より挨拶が行われその後、三船久蔵・ギリシャベテラン柔道家協会会長トリフォン・ペパス氏より講演が行われました。スポーツ教育やオリンピックという概念が普及していなかった当時の日本において、圧倒的に不利な状況の中、嘉納治五郎がどのように「幻の東京オリンピック」と呼ばれる 1940 年の東京オリンピック招致を成功に導いたのか、写真やビデオ等の資料を用いた熱のこもった講演に参加者が聞き入る様子が印象的でした。

講演後のレセプションでは、寿司をはじめとする和食に加え、日本酒が提供されました。会場では、今回の講演について、日本とオリンピックの歴史につき知らない一面を知ることができて非常に面白かった等好評の声が数多く聞かれ、大盛況のうちに本イベントは幕を閉じました。

本講演会は、85 年前に嘉納治五郎自身が IOC の記念会合に出席するためにアテネを訪れた際スピーチを行ったパルナソス文化芸術シアターで行われました。



## 日本・ギリシャ現代版画交流展

2019年3月15日から20日、ピレウス市立アート・ギャラリーにおいて、日本版画会・ギリシャ版画家協会・日本大使館の共催で、「日本・ギリシャ現代版画交流展」を開催しました。今回の文化事業は、1899年に日本ギリシャ修好通商航海条約が結ばれてから120周年を記念する行事の一環として行われ、日本とギリシャが長年、船舶をつうじて友好関係を築いてきた土地であるピレウスにおいて、ピレウス市及び版画フォーラム実行委員会の協力の下、M/MARITIME社から協賛を受けて開催しました。

前夜となる14日に開催したオープニング・レセプションでは、冒頭、伊田臨時代理大使から、日本とギリシャの版画家をはじめ、ピレウス市関係者、船舶・海運関係者、日系企業関係者、文化関係者等の招待客に対し、歓迎の辞を述べました。続いて、アイリーン・ダイファス・ピレウス副市長（文化担当）、高野勉日本版画会長、寺島宗知茶道師範、フローレンス・クリスタキス・ギリシャ版画家協会会長より、順に挨拶が述べられました。さらに、日本版画会とギリシャ版画家協会から、ピレウス副市長及びM/MARITIME社に、記念品として版画絵や染め絵が贈呈されました。来場者は、日本版画会及びギリシャ版画家協会の会員による芸術性の高い版画作品を鑑賞するとともに、寺島師範によるお茶席に参加したり、日本版画会から提供された日本酒や和菓子等を味わいました。

また、3月15日と17日にはアテネ美術大学版画学科及びピレウス市立アート・ギャラリーにおいて、日本版画会による版画ワークショップが開催されたところ、多くの観客が版画技術について熱心に耳を傾けていました。

日本版画会とギリシャ版画家協会の交流は今後日本に場所を移して続き、今年日本で開催される版画展にギリシャ版画家の作品が招かれることになっています。



## 大妻女子大学生当館訪問

2019年3月4日、大妻女子大学比較文化学部の学生14名が、ギリシャ文化・西洋古典学を専門とする渡邊顕彦先生の引率で、ヨーロッパ文化研修旅行の一環として大使館を訪れました。

冒頭清水大使より挨拶が行われたのち一行は、大使からギリシャの歴史及び現在の情勢について、広報文化担当官から大使館の活動内容についての説明を受けました。

その後質疑応答時間が設けられ、ギリシャ語やギリシャと日本との交流等につき、学生の方達から様々な質問が寄せられ、大変有意義な時間となりました。



## 清水大使のデルフィ経済フォーラム出席とデルフィ副市長訪問（3月1～2日）

2019年3月2日、清水大使は、第4回デルフィ経済フォーラムにおいて、「環境の劣化と気候変動」と題するパネルにスピーカーとして出席し、「世界的な環境の変化」と題するプレゼンテーションを行いました。その中で清水大使は、先日、安倍総理がダボス経済フォーラムで打ち出した環境に関するイニシアチブを紹介するとともに、来る6月に大阪で開催されるG20サミットにおいて、日本がリーダーシップを発揮し、気候変動と海洋環境システムに関する革新的な環境対策を打ち出す用意がある旨述べました。

また、先立つ3月1日、清水大使は、ルカス・アナグノストプロス・デルフィ副市長と懇談し、デルフィ市と南砺市との間の姉妹都市交流の進展につき話を聞くとともに、デルフィ遺跡発掘にかかる歴史につき説明を受けました。



## 日本映画祭 2019 «増村保造監督 日本ヌーヴェルバーグの先駆者»

2019年2月14～17日、アテネ市内カコヤニス財団ホールにて、在ギリシャ日本大使館、ミハリス・カコヤニス財団、国際交流基金の共催で「日本映画祭 2019 《増村保造監督 日本ヌーヴェルバーグの先駆者》」が行われました。今年度の映画祭は、日本ギリシャ修好120周年記念事業の一環として実施されたもので、日本映画界の鬼才・増村保造監督を特集し、在ギリシャ日本大使館より初公開となる珠玉の4作品が上映されました。

初日の14日（木）にはオープニングセレモニーが開催され、冒頭に清水大使及びカコヤニス財団アート・ディレクターのアレクサンドラ・ヨルゴプル氏より歓迎の挨拶が述べられました。同セレモニーにはギリシャ聴覚障害者連盟からの参加者も迎え、舞台上では手話による同時通訳が行われました。その後、増村監督のデビュー作品、青

春映画の『くちづけ』(1957 年)がギリシャ語字幕付で上映されました。

上映後は、会場前のホールにてレセプションが催され、ギリシャ料理とともに寿司や日本酒が観客に振る舞われました。

4 日間にわたる映画祭期間中は、その他 3 作品『青空娘』(1957 年)『兵隊やくざ』(1965 年)、『華岡青洲の妻』(1967 年)が毎日 2 本ずつ上映され、多くの人々に来場いただき、大盛況の内に幕を閉じました。



## コルフ・アジア美術館デスピナ・ゼルニオティ館長への外務大臣表彰伝達式

当地コルフ・アジア美術館デスピナ・ゼルニオティ館長が、平成 30 年度外務大臣表彰を受賞しました。

2019 年 1 月 30 日には、ギリシャにおける日本文化・芸術の理解促進に貢献してきた同氏のこれまでの功績が称え、公邸にて伝達式が行われました。

ゼルニオティ館長は、現在まで約 13 年にわたりコルフ・アジア美術館の館長を勤めています。同美術館の日本美術コレクションは、写楽の浮世絵を含む絵画から貴重な工芸品まで、約 6200 点にのぼります。

外務大臣表彰は、1983 年に、我が国と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をされた個人および団体の功績を称え、その活動に対する一層の理解と支持を広めるために設立されました。



## 写真展「光と希望のみち Road of Light and Hope - Voyage of Hellenism to Japan-」

### オープニングレセプション

2019年1月14日（月）、ビザンティン美術館において、写真家伊藤みろ氏による写真展「光と希望のみち Road of Light and Hope - Voyage of Hellenism to Japan-」のオープニングレセプションが行われました。清水大使夫妻は、政府関係者、各国外交使節団長、文化芸術関係者、政務経済関係者等を含む招待者客を歓迎しました。

冒頭、ビザンティン美術館館長エカテリーニ・デラポルタ氏より開会の辞が述べられ、続いて、カトゥルガロス・ギリシャ外務副大臣及び清水大使より挨拶が行われました。さらに、写真家伊藤みろ氏が本展示の作者として、また、谷野啓日本カメラ財団（JCII）常務理事の代理として挨拶を述べました。

趣のある展示会場で、来場者には、日本の古代首都でありシルクロードの東端である奈良にある東大寺と春日大社（いずれもユネスコ世界文化遺産）が所蔵する、ヘレニズムの影響を受けたとされる銅像やその他国宝の写真46点につき、作者である伊藤みろ氏より説明を受ける機会が設けられました。

式典後のレセプションでは、寿司をはじめとする和食に加え、日本酒も提供されました。

写真展「光と希望のみち Road of Light and Hope - Voyage of Hellenism to Japan-」は、日本ギリシャ修好120周年（1899-2019）記念行事の一環として、2月10日（日）までビザンティン美術館において開催されます。



## 「明治 150 年記念 第 31 回世界青年の船」事業に参加するギリシャ代表团壮行レセプション



2019 年 1 月 11 日（金）、清水大使は、内閣府主催「明治 150 年記念・第 31 回世界青年の船」事業に参加するギリシャ代表团 12 名及び関係者を公邸に招き、壮行レセプションを開催しました。

冒頭、清水大使より代表团に対し、激励と健闘を祈念する言葉が贈られました。続いて、団長パナヨーティス・マムザーキス氏より代表团メンバーの紹介が行われ、各メンバーから同事業に向けた準備の様子が発表されるとともに意気込みが述べられました。さらに、「世界青年の船」ギリシャ支部同窓会（SWYAA）の会長であるコンスタンディノス・チガラス氏より、同窓会の活動やメンバーとしての経験に言及した挨拶が述べられました。レセプションでは寿司をはじめとする和食が提供され、和気藹々とした雰囲気の中、大航海を控えた代表团へ激励の言葉や温かいアドバイスを送る様子が見られました。

ギリシャ代表团は 1 月 14 日（月）に日本へ向けて出発し、1 月 27 日より世界 11 カ国 242 名の青年参加者を乗せた大型クルーズ船「にっぽん丸」で横浜港より、パラオ、ソロモン諸島、オーストラリアを訪問する 50 日間の航海の旅に出ます。

「明治 150 年記念 第 31 回世界青年の船」事業は、日本ギリシャ修好 120 周年記念事業の一環として実施されます。

事業詳細：[https://www.gr.emb-japan.go.jp/files/SWY31\\_Greek\\_final.pdf](https://www.gr.emb-japan.go.jp/files/SWY31_Greek_final.pdf)

